

東京23区の廃棄物焼却施設等の変遷

工場名	工期		敷地面積 (約㎡)	建設費 (円)	炉型式	規模 (炉・基数)	備考
	着工 年月	竣工 年月					
明治34年(1901) 深川区平久町埋立予定地に塵芥投棄場設置 露天焼却開始露天焼却開始							汚物掃除法(1900) ごみの収集処分が市の義務となる
明治40年(1907) 綾瀬村に、じん芥焼却炉建設の案崩れる(用地は買収済)							
大正4年(1915) 品川第3第6砲台のじん芥焼却場建設計画崩れる							
大崎塵芥焼却場		大正 13.11	447坪73	48,000円	かまど式(固定バッチ式) 片山式自然通風式	22t/日	昭和39年まで全てこの方式 用地買収費16,744.45円
渋谷町ごみ焼却場		大正 14.3	ごみ焼却場をめぐる町同士の対立			30t/日	目黒町内に建設、昭和7年廃止
大井塵芥焼却場		昭和 2.4	775坪	3,000円	かまど式(固定バッチ式)	26t/日	借地料年間651.00円 戦後廃止
昭和2年(1927) 深川地先8号地理立開始(露天焼却) 露天焼却で10万貫(約375t)、工場で20万貫(約750t)							
王子塵芥焼却場		昭和 3.11	454坪	48,313.83円	かまど式(固定バッチ式)	30t/日	用地買収費14,220.00円
入新井塵芥焼却場		昭和 4.5	323坪	1,929.33円	かまど式(固定バッチ式)	37t/日	用地買収費10,425.44円
深川塵芥処理工場 第一工場		昭和 4.8	3工場 7,693坪16	88,619.84円	かまど式(固定バッチ式) 高熱焼却式 選別焼却方	131t/日 (16炉)	選別式焼却法を採用した初の焼却場、 1,2,3工場借地料年間14,387.68円
戸塚町ごみ焼却場		昭和 5	煤煙で使用できず				使用しないまま、昭和7年廃止
汚物掃除法改正 昭和5年(1930)ごみ焼却義務化、し尿くみ取り義務化							
大崎塵芥焼却場 第二工場		昭和 6.5			かまど式(固定バッチ式)	11t/日	昭和48年(1973)“大崎清掃工場操業休止 昭和49年(1974)“大崎清掃工場廃止
日暮里塵芥焼却場		昭和 6.12	520坪64	35,576.43円	かまど式(固定バッチ式)	30t/日	借地料年額1,561.92円 昭和49年(1974)“日暮里清掃工場廃止
昭和7年(1932) 編入に伴い大崎、大井、入新井、王子、日暮里の各焼却場引き継ぐ(東京市域大拡張、5郡82町村を編入、35区となった。)							
深川塵芥処理工場 第二工場		昭和 8.3	3工場 7,693坪16	79,771.66円	かまど式(固定バッチ式) 高熱焼却式 混合焼却方式	136t/日	厨芥粉碎工場・醱酵堆肥工場(ベッカリー式 厨芥通気発酵貯槽)完成 第一、第二、第三工場で 1年間平均1日25 万貫(約940t)処理
深川塵芥処理工場 第三工場		昭和 8.3	3工場 7,693坪16		かまど式(固定バッチ式) 高熱焼却式 混合焼却方式		
蒲田塵芥焼却工場		昭和 11.5	748坪	46,778.58円	かまど式(固定バッチ式)	約47t/日	用地買収費10,512.00円 昭和49年(1974)“蒲田清掃工場廃止”
足立塵芥焼却場		昭和 11.11	1,001坪25	61,472.72円	かまど式(固定バッチ式)	約28t/日	用地買収費17,576.00円 排ガス再循環方式
昭和14年(1939) 東京市、深川塵芥処理工場でごみ発電のための実験開始							
昭和23年(1948) 焼却場の復旧に着手							
昭和24年(1949) 蒲田じん芥焼却場復旧、8月焼却開始、操業再開 45t/10時間 復旧費用 43万9,600円							
昭和25年(1950) 日暮里塵芥焼却場復旧、2月 30t/10時間 復旧費用 140万1,500円							
昭和25年(1950) 大崎塵芥焼却場復旧、3月 34t/10時間 復旧費用 130万円							
千歳塵芥焼却場	昭和 16	昭和 30.8			かまど式(固定バッチ式)	260t/日 (65t×4)	戦争で工事中断 昭和42年(1967) 千歳清掃工場操業停止
昭和30年(1955) 塵芥焼却場からごみ焼却場へ改称							
昭和32年(1957)4月 東京式ごみ高速発酵堆肥化装置竣工(8号地)(36年4月廃止)							
昭和32年(1957)4月 ごみ焼却場を清掃工場と改称 (千歳ごみ焼却場を第一清掃工場、大崎ごみ焼却場を第二清掃工場、日暮里ごみ焼却場を第三清掃工場、蒲田ごみ焼却場を第四清掃工場に変更)							
第五清掃工場		昭和 33.8	約15,000		かまど式(固定バッチ式)	400t/16h	大型焼却炉6基(1炉予備) 昭和40年9月 石神井清掃工場建替えのため作業中止
昭和36年(1961)5月 清掃工場の名称変更 第一清掃工場から第五清掃工場をそれぞれ千歳清掃工場、大崎清掃工場、日暮里清掃工場、蒲田清掃工場、石神井清掃工場に変更							
昭和36年(1961)5月 ダノ式高速発酵堆肥化施設竣工(板橋清掃工場内)(41年3月廃止)							
板橋清掃工場	昭和 36	昭和 37.10	1万3,000坪		かまど式(固定バッチ式)		燃焼排ガスの除じんサイクロンとベンチュリー スクラバーが採用 昭和46年3月で建替へ
多摩川清掃工場	昭和 32	昭和 37.12			かまど式(固定バッチ式)		反対運動で昭和36年工事再開、 昭和44年4月に廃止

東京23区の廃棄物焼却施設等の変遷

工場名	工期		敷地面積 (約㎡)	建設費 (百万円)	炉型式	規模 (炉・基数)	備考	
	着工 年月	竣工 年月						
足立清掃工場	昭和 37	昭和 39.3	1,213	1,150	チェーンストーカ式		連続式機械焼却炉導入 昭和48年11月に廃止	
葛飾清掃工場	昭和 37	昭和 39.3		1,200	チェーンストーカ式	600t/日	連続式機械焼却炉導入 昭和48年8月に廃止	
昭和40年(1965) 夢の島ハエ撲滅焼却作業実施ハエ退治のため、夢の島焦土作戦実施 昭和41年(1966) 杉並区高井戸に清掃工場建設を発表								
江戸川清掃工場	昭和 39.12	昭和 41.10	19,704	1,437	タクマ式焼却炉	600t/日 (200tx3)	都内初の連続燃焼炉3基を、電気集じん機採用 平成5年建替えのため廃止、平成9年1月新工場竣工	
昭和41年(1966) 杉並清掃工場建設用地、上高井戸地区に決定、都案白紙撤回運動はじまる。 「杉並清掃工場上高井戸地区建設反対期成同盟」結成								
北清掃工場	昭和 41.7	昭和 44.3	10,470	1,681	フェルト式焼却炉	600t/日 (300tx2)	都では初めて外国技術を導入した焼却炉 平成2年建替で操業停止平成10年3月新工場竣工	
世田谷清掃工場	昭和 41.10	昭和 44.3	27,846	3,136	日立造船 デ・ロール式	900t/24h (300tx3)	昭和55年には煙突筒身劣化事故、煙突建 替えとデザインの公募	
石神井清掃工場	昭和 41.6	昭和 44.3	15,763	2,069	日立造船 デ・ロール式	600t/日 (300tx2)	昭和58年4月、名称を練馬清掃工場に変更、平成元 年焼却炉を稼働しながらのプラント更新	
千歳清掃工場	昭和 42.10	昭和 46.3	17,062	2,285	タクマ式H型	600t/日 (300tx2)	平成3年(1991) 千歳清掃工場の廃止、建 替、平成8年3月新工場として竣工	
昭和46年(1971) 美濃部都知事「東京ごみ戦争」宣言、東京都ごみ戦争対策本部設置 昭和47年(1972) 杉並清掃工場建設問題で反対期成同盟と「覚書」で合意								
昭和48年(1973) 清掃工場の排水・排ガス測定結果を発表。一部から公害防止条例規制基準を越えるカドミウム、鉛を検出 23区で不燃、焼却不適ごみ分別収集開始								
大井清掃工場	昭和 45.10	昭和 48.9	53,767	5,737	日立造船 デ・ロール式	1,200t/24h (300tx4)	品川清掃工場 プラント更新へ	
多摩川清掃工場	昭和 46.4	昭和 48.11	26,948	2,997	タクマ H型	600t/24h (300tx2)	昭和54年煙突座屈事故、平成11年3月廃 止、プラント更新へ	
江東清掃工場	昭和 45.10	昭和 49.3	86,738	9,339	タクマ式H型焼却炉	1,800t/日 (300tx6)	平成10年3月、新工場の開設にあわせ て、旧工場は廃止	
板橋清掃工場	昭和 46.7	昭和 49.12	44,424	4,548	日本鋼管 フェルト式	1,200t/24h (300tx4)	昭和54年9月煙突座屈事故、平成11年3月 廃止、プラント更新へ	
葛飾清掃工場	昭和 48.12	昭和 51.12	52,000	22,100	三菱重工 マルチン式	1,200t/24h (400tx3)	反対根強く、本稼働は52年2月(6月発電開始)プ ラント更新へ	
足立清掃工場	昭和 49.4	昭和 52.9	34,000	15,700	日立造船 デ・ロール式	1,000t/24h (250tx4)	反対運動根強く1,200t /日規模から焼却750t /日、予備炉250t /日に、プラント更新へ	
昭和53年(1978)1月 高温熔融処理実験施設が中央防波堤内側処分場内に完成(1月26日 竣工引渡式)								
昭和53年(1978)10月 都市ごみコンポスト化実験施設竣工								
昭和54年(1979)6月 中央防波堤内側処分場内に粗大ごみ破碎処理施設竣工								
杉並清掃工場	昭和 54.4	昭和 57.12	36,000	17,787	日本鋼管 フェルト式	900t/24h (300tx3)	自動車交通対策を重視 建替	
光が丘清掃工場	昭和 55.10	昭和 58.9	23,000	10,547	三菱重工 マルチン式	300t/24h (150tx2)	地域冷暖房に熱供給 建替	
昭和58年(1983) 使用済み乾電池の処理が社会問題化 昭和59年(1984)清掃工場排ガス中の水銀濃度測定結果第1回目公表								
昭和60年(1985) 3月 コンポストセンター竣工(平成6年コンポストセンター中止)								
大田 清掃 工場	第一工場		平成 2.3		19,824	タクマ式 HN型	600t/24h (200tx3)	休止
	第二工場	昭和 62.3	平成 2.3	92,000	32,570	日立造船 熱分解焼却炉	600t/24h (200tx3)	不燃ごみ処理施設 廃止 建替、新大田清掃工場建設
						交流アーク式	500t/24h (250tx2)	廃止
目黒清掃工場	昭和 62.10	平成 3.3	29,000	17,976	日本鋼管 フェルト式	600t/24h (300tx2)	建替	
破碎ごみ処理施設	平成 2.7	平成 4.7	5,000	6,400	荏原 流動床	180t/24h (180tx1)	平成27年度末で休止	
練馬清掃工場	平成 元	平成 4.9	15,000	10,548	川崎重工 サン型	600t/24h (300tx2)	建替	

東京23区の廃棄物焼却施設等の変遷

稼働中・建替中の清掃工場

工場名	工期		敷地面積 (約 m ²)	建設費 (百万円)	炉型式	規模 (炉・基数)	備考	
	着工 年月	竣工 年月						
稼働中	有明清掃工場	平成 3. 4	平成 7. 12	24,000	41,695	三菱重工 マルチン式	400t/24h (200t×2)	ごみ管路収集輸送施設
	千歳清掃工場	平成 3. 12	平成 8. 3	17,000	27,311	川崎重工 サン型	600t/24h (600t×1)	
	江戸川清掃工場	平成 4. 12	平成 9. 1	28,000	34,216	日本鋼管 フェルト式	600t/24h (300t×2)	
	墨田清掃工場	平成 6. 7	平成 10. 1	18,000	33,300	日立造船 デ・ロール式	600t/24h (600t×1)	
	北清掃工場	平成 5. 4	平成 10. 3	19,000	33,565	三菱重工 マルチン式	600t/24h (600t×1)	
	新江東清掃工場	平成 6. 7	平成 10. 9	61,000	88,193	タクマ HN型	1,800t/24h (600t×3)	
	港清掃工場	平成 7. 3	平成 11. 1	29,000	44,570	三菱重工 マルチン式	900t/24h (300t×3)	
	豊島清掃工場	平成 7. 9	平成 11. 6	12,000	16,977	石川島播磨 流動床炉散気管式	400t/24h (200t×2)	
	渋谷清掃工場	平成 10. 4	平成 13. 7	9,000	13,310	荏原 流動床炉旋回流型	200t/24h (200t×1)	
	中央清掃工場	平成 10. 4	平成 13. 7	29,000	29,400	日立造船 デ・ロール式	600t/24h (300t×2)	
	板橋清掃工場	平成 11. 12	平成 14. 11	44,000	29,828	住友重機械 W+E式	600t/24h (300t×2)	
	多摩川清掃工場	平成 12. 3	平成 15. 6	32,000	15,599	石川島播磨 回転ストーカ炉	300t/24h (150t×2)	
	足立清掃工場	平成 11. 12	平成 17. 3	37,000	28,651	荏原 HPCC型	700t/24h (350t×2)	
	品川清掃工場	平成 14. 9	平成 18. 3	47,000	27,500	日立造船 デ・ロール式	600t/24h (300t×2)	
	葛飾清掃工場	平成 15. 6	平成 18. 12	52,000	15,770	タクマ SN型	500t/24h (250t×2)	
	世田谷清掃工場	平成 16. 7	平成 20. 3	30,000	16,685	川崎重工 流動床 ガス化溶融	300t/24h (150t×2)	
	大田清掃工場	平成 22. 6	平成 26. 9	92,000	18,797	タクマ SNF型	600t/24h (300t×2)	
	練馬清掃工場	平成 22. 12	平成 27. 11	15,000	18,908	JFE ハイパー21ストーカ	500t/24h (250t×2)	
杉並清掃工場	平成 24. 9	平成 29. 9	36,000	28,355	日立造船 デ・ロール式	600t/24h (300t×2)		
建替中	光が丘清掃工場	平成 28. 6	平成 33. 3予定	23,000	33,588	タクマ 全連続燃焼式火格子焼却炉	300t/24h (150t×2)	
	目黒清掃工場	平成 29. 6	平成 35. 3予定	29,000	51,471	JFE 全連続燃焼式火格子焼却炉	600t/24h (300t×2)	

東京23区の廃棄物焼却施設等の変遷

灰溶融施設・不燃・粗大ごみ処理施設

(1) 灰溶融施設

工場名	工期		敷地面積 (約 m ²)	建設費 (百万円)	炉型式	規模 (炉・基数)	備考
	着工 年月	竣工 年月					
板橋清掃工場	平成 11.12	平成 14.11	—	—	電気式交流アーク式	180t/24h (90t×2)	平成27年度末で休止
多摩川清掃工場	平成 12.3	平成 15.6	—	—	燃料式表面溶融方式 回転型	30t/24h (30t×1)	稼働中
足立清掃工場	平成 11.12	平成 17.3	—	—	電気式プラズマ式トーチ	130t/24h (65t×2)	平成26年度末で休止
品川清掃工場	平成 14.9	平成 18.3	—	—	燃料式表面溶融方式 固定型	180t/24h (90t×2)	平成26年度末で休止
葛飾清掃工場	平成 15.6	平成 18.12	—	—	電気式プラズマ式 黒鉛電極	110t/24h (55t×2)	稼働中
世田谷清掃工場	平成 16.7	平成 19.12	—	—	電気式プラズマ式トーチ	120t/24h (60t×2)	平成26年度末で休止
中防灰溶融施設	平成 15.6	平成 18.12	21,000	18,375	三菱重工プラズマ式・ 黒鉛・電極電気式灰溶融	400t/24h (100t×4)	平成25年度末で休止

(2) 不燃ごみ処理施設

工場名	工期		敷地面積 (約 m ²)	建設費 (百万円)	炉型式	規模 (炉・基数)	備考
	着工 年月	竣工 年月					
中防不燃ごみ処理 センター第一プラン	昭和 59	昭和 61.12	47,700	6,600	回転衝撃方式 ロータリーキルンも?	33t/hx2系列	平成20年度で休止。中防不燃・粗大ごみ処理施設整備事業計画(平成38年度完成予定)
中防不燃ごみ処理 センター第二プラン	平成 6.9	平成 8.10	68,000	12,050	日立造船 横型回転衝撃式	48t/hx2系列	
京浜島不燃ごみ処 理センター	平成 6.12	平成 8.11	46,000	18,700	極東開発 縦型回転衝撃式	8t/hx4系列	

(3) 粗大ごみ処理施設

工場名	工期		敷地面積 (約 m ²)	建設費 (百万円)	炉型式	規模 (炉・基数)	備考
	着工 年月	竣工 年月					
粗大ごみ破碎処理施	昭和 52.12	昭和 54.6	33,000	1,650	極東開発 縦型回転衝撃式	27t/hx2系列	平成元年、約2億2,000万円をかけて、受入れヤードの拡張工事

※建設費は主体工事に要した経費